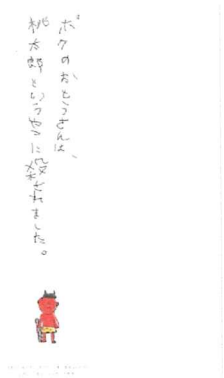
学校をつくろう!通信

がっこう・N.P.O.
珊瑚舎スコーレ
第124号

学校の役割　　その　１０４

「ボクのおとうさんは、
　　桃太郎というやつに殺されました。」

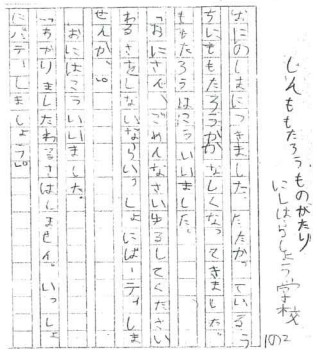
ご存知の方も多いと思いますが、日本新聞協会が主催する「新聞広告クリエーティブコンテスト」の「しあわせ」をテーマに実施された２０１３年の最優秀の作品「めでたし、めでたし？」のコピーです。涙を流す鬼の子の下には、「一方的な『めでたし、めでたし』を、生まないために。広げよう、あなたがみている世界。」と小さな字でメッセージが書かれています。



めでたし、めでたし？

結塾Ｊ＆Ｓの小学生の文章講座で「桃太郎」を読んだ後、この「めでたし、めでたし？」を紹介しました。一瞬シーンとなりました。「鬼の子が泣かなくてもいい『新・桃太郎物語』を書こう」と提案しました。力作がそろいましたが、その中から小学校１年生が書いた「新・桃太郎物語」と３年生が書いた「鬼の子へ」の手紙を紹介します。

おにのしまにつきました。たたかっているうちにももたろうがかなしくなってきました。ももたろうはこういいました。
「おにさん、ごめんなさいゆるしてくださいわるさをしないならいっしょにぱーティしませんか。」
おにはこういいました。
「わかりましたわるさはしません。いっしょにパティしましょう。」
と、おにはいいました。
そしてももたろうとおには、いつまでもいつまでもパティをしつづけました。
おにの子どももパーティしました。
おには、いつまでもおにとパーティしつづけました。
めでたしめでたし。（表記は原文のまま）



しんももたろうものがたり

征伐する側の悲しみと征伐される側への深謝、小学校１年生が僕に改めて教えてくれた人の可能性です。正義はこの二つを忘れているうちは正義たりえません。

３年生の鬼の子への手紙を紹介します。新・桃太郎物語を書き上げた後、教室の隅で何か書いていましたが、「鬼の子に手紙を書いたからホッシー読んで」と言って見せてくれました。

あなたは、元気ですか。わたしは元気です。いつも学校で遊んでいます。とてもいい友達ですよ。お父さんがなくなったのは、さみしいけれどがんばっていけばいい。つらいときものりこえていけばいい。つらいときがあってもなけばいい。人間だっていっしょ。つらいときはだれだってなく。人間もおにとおんなじ気持ちだからいっぱいないてもいい。わたしだってつらいときはなく。おにとおんなじ気持ちだからないてもいい。３年３組　・・・・・より
おにの子さんがんばれ。（表記は原文のまま）

手紙を書いた３年生は母親を亡くして間もなくでした。文章講座は書いた文章を朗読して完成です。現象、或いは状況を体験に昇華する営みです。（ほ）

2018 年度は、昼の生徒20名、夜間中学校　15名でスタートしました。新入生も在校達に交じって「入学を祝う会」の企画、準備を行いました。「入学を祝う会」より昼の生徒達の声を紹介します。

がじゅまる
しんかぬちゃー

（生徒・学生のコーナーです）

「新入生を迎える言葉」

高等部　松田知流

新入生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。僕たち在校生は心から歓迎しています。この珊瑚舎スコーレはとても面白く、ある程度自由な学校です。授業もとても興味深いのがたくさんあります。ですので、皆さん、ぜひ何か夢中になれるものを見つけて下さい。他に紹介したい事は、この学校は行事が多いです。なので、今月ひまだな～と思う事は少なく、とても充実した１年になると思います。

そして今一度、珊瑚舎スコーレへの入学おめでとうございます。一緒に学び、一緒に楽しい思い出を作りましょう。

初等部　市川瑠禾

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。これから始まる学校生活の中で、わからないことや一人だと難しいことが出てくると思うけど、その時はみんなで助け合い、解決していきましょう。どんな時も楽しくえがおをたやさず、学校生活を一緒に作りましょう。

カサビ　グムー
（宣ね雲）

＊「入学を祝う会」が始まる前に、新入生に対して在校生がオリエンテーションを行います。学校生活や行事説明の他、自分にとって珊瑚舎スコーレがどういう場であるかという事を話します。その言葉を紹介します。

「僕にとっての珊瑚舎」　高等部　稲垣北斗

僕にとっての珊瑚舎は、毎日学校に行くのが楽しみである場所です。公立の学校みたいな決まったルールとか校則はなくて、自分たちで学校をつくっていく所。それこそルールも自分たちで考えて、自分らが生徒になって、自分たちが講師になって、お互いに教えあう、こんな所です。よその学校とは違って、珊瑚舎には上下関係はありません。先輩だからこうだっていうのはありません。一緒に生活する仲間だから。全部が全部うまくはいかない時もある。だからそれはみんなで解決していくっていうのが僕たちのやり方です。

「自分にとっての珊瑚舎」　高等部　上野響生

僕にとって珊瑚舎は自分の世界が広がって作る場所だと思います。それは自分が興味あることが学べる環境であること。自分が知らないことを知る、経験できるチャンスがあること。珊瑚舎はそんな場所です。

「珊瑚舎に入学して」

中等部　山川虎雅

僕は、「入学を祝う会」の準備から参加をしていました。準備をしながらみんなと仲良くなり、楽しさやワクワクしながら「入学を祝う会」を迎えました。

「入学を祝う会」では、みんなで協力して進めていました。みんなで作った歌を歌ったり、最後はカチャーシーをしたりして楽しい「入学を祝う会」でした。そして授業では、ことば「うちなー口」の時間や、紅型講座などがあってとても楽しいし、教える先生も先生みたいじゃなくて、友達のように打ち解けるような感じでとても授業が楽しいです。

４月２７日は楽しい遠足でした。遠足ではバスに乗っていろんなところを周りました。お昼は奥武島（オウジマ）という所にある公園で食べました。ここにはネコがたくさんいて、ご飯を食べた後ちょっとネコと遊んで、準備体操をして海に行きました。海に行って水でっぽうで遊んだり、水泳で勝負したりして遊びました。

今は学校に行くのがとっても楽しみです。そしてこれからもっと珊瑚舎で、たくさんいろんなことを学びたいです。

卒業制作　自画像より

＊前号に続いて昼・夜卒業生の自画像を紹介します。

＜高等部＞

「自画像」　坂本菜の花

正方形のマスが並んでいる。大きいものや、小さいもの、枠線の濃いものや、薄いものなど様々だが、決して途切れることなく正方形は続いている。そこに、一つ一つ文字を入れた。きれいに、間違いのないように、はみ出さないように。そうやって書いてきた文字が見える。はじめの頃にあった無邪気さがだんだん汚れて、中味が空っぽになった字に変わっているのがよく見える。うまく書こう、きれいに書こうとして、大切なものをいっぱいこぼしてきてしまった。

隣の紙を見る。同じようにマスが並んでいる。でも字はおさまりきれずにマスからはみ出しているし、お世辞にもきれいとは言えない。それなのに、何故か美しかった。愛おしかった。

はみ出してもいいんだ。きれいにならなくてもいいんだ。汚い字をくしゃくしゃに握りしめて真っ暗な空の下にたおれた。今までぬり固めていたものが、ガラガラと崩れる音がした。私も本当はこんな字じゃない。本来の私はどこに行ったんだろう。ずっと見つからなかった。髪の先に触れることはあっても、手をつかむことはできなかった。本棚の奥でほこりまみれになって自分を探していた。そんな時に誰かが言った。

「自分らしさは変わっていくんだ」

必要なのは理想の自分を過去から探すことじゃない。今の汚い自分をどう美しくしていくかなんだ。汚い自分を、きれい事でぬり固めない生き方をしたい。変わっていく自分を大切にしていきたい。

＜夜間中学校＞

「三つの夢」　砂川俊明

私は宮古島で生まれ六歳まですごしました。七歳の時に石垣島の糸満屋に働きに行かされました。それから海人として十三年間毎日働き、辛い事も楽しいこともありました。

仕事はなにをするかというと、朝起きて庭掃除、終わると子もりしたり、子供が泣くと自分も一緒に泣く時もありました。

海人としてこれから潜りの訓練、本当に厳しかったです。冬の寒い時は辛かったです。毎日がいやでした。しかし一生懸命頑張って潜る事ができました。それから網元と一緒に漁に出るようになりました。一人前になると楽しい時もありました。辛い時は夕方になると、一人浜に出て大声で泣くこともありました。

十七歳の時にビルマ（今のミャンマー）に一年間行きました。それから石垣島に帰りました。年季まで海人として頑張る事になりました。あと二年間残っていましたので一生懸命頑張りたいと思いました。

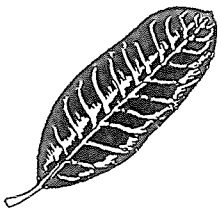
私は年季あけたので石垣島から那覇に行きました。那覇港に着いたとき西も東も分かりませんでした。はじめてのことでびっくりし、泊大橋を安謝に向かって歩いていると運よく友達に会いました。その時仕事を世話してもらうことになりました。

私は夢を三つ持っていました。一つめは石垣島から那覇に行って仕事をしたい、ということです。二つめは結婚して家族をもちたい、自営業をしたいと思いました。二つは叶えました。

三つめは学校行きたい、ということでした。仕事も定年でやめたので、自由時間をもてあましました。そんな時に珊瑚舎スコーレ夜間中学のことをテレビで見ました。それで家族と、相談して入学しました。最初は勉強が大変でした。英語も数学も日本語も苦労しました。自分なりに勉強を頑張ってよかったです。

三つの夢を叶える事ができました。卒業後は仕事をしようか、後一年勉強しようか考えています。

ふくぎのふぁー



（講師・スタッフのコーナーです）

初等部・中等部「アートタイム」

担当　若林有佳

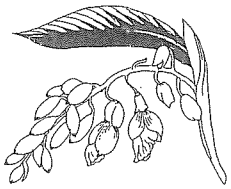
１９９６年生まれのふたご座、埼玉県秩父市の自然に囲まれた環境で育ちました。親が家にいなかったこともあり幼少期から絵の世界にとらわれていました。９歳の時に画家になると決め、意識的に制作するようになり、地元中学を卒業後、親の反対を押し切り家から片道２時間の芸術高校に通いました。そこで恩師に出会い、私自身の芸術が私の人生を変えて行くようなそんな尊い青春を経験しました。その後『芸術を手段とした自然保護保全』の道を探し、１８歳で沖縄県立芸術大学に入学しました。半年間のイギリス留学を経て、現在では当初の目的とは別に、『芸術が人にもたらす力』について、自分自身に施していた芸術による自己実現と芸術が自然と人間をつなぐ道具、人間が生み出した自然の福音書のようなものであるという２つの観点から研究しています。

アートタイムでの目的は生きる力を培うことです。私は生きる力＝考える力であると考えていて、前期の目標には、その中でも『気づきの力』を伸ばすことに設定しています。

まず、生きるプロセスを簡単に解剖すると「（対象を）認識→理解→想像→表現や行動に起こす→結果→認識（繰り返し）」このようなことが言え、『気づきの力』は一番初めの『認識』にあてはまります。どんなに学問ができても、どんなに優れた力を持っていても、物事に『気づく』、課題を『認識』する力がなければ、解決することはおろか想像することすらできません。空の色や風の音の変化に気づく、画材の良さに気づく、自分の弱さや友達の優しさに気づく、これらは対象が違うだけで全て同じ能力です。対象を知ることで初めて、考え、理解が生まれ、想像し、より良い表現をすることができます。驚くことに、ものを作るというプロセスは先ほどの生きるプロセスと全く同じものと言えます。なかなか理解するのが難しいかもしれませんが、人間が脳みそで生きているように、芸術も脳みそから生まれてくるのです。

現時点では私の教師としての経験の浅さで、未だ生徒の自由を尊重しながらスムーズに手助けしてあげることはできていません。不甲斐ないばかりですが、このようにものを作る過程を何度も繰り返した人がどのように成長して行くか、少しだけ想像していただけたでしょうか？これが芸術の力であり、私の理想とする世界です。今後も生徒たちと新しい気づきや発想を楽しみ共有しながら、彼らの力ある学びを一緒に作って行きたいです。

マチカンテイー



（夜間中学校のコーナーです）

“まちかんてい”（待ち兼ねていたよ）は「７歳の時から自分が通う学校がいつか出来ると思って、６０年待ちました。夢は実現するものですね」と話してくれた生徒の言葉からもらいました。

連載　聞き書き　その６８

＜Ｏ・Ｆさん談＞

新聞に卒業式の様子が載ったのを５～６年前に見ました。その頃は家族のことで学校に通える状態ではありませんでした。昨年、もう通えるかなと思い、夜間中学校がどこにあるか聞いたら、だれも知らないんです。沖縄にはないんじゃないのと言われ、がっくりでした。ところが運転の途中、赤信号で止まった時になにげなく横をみたら「珊瑚舎スコーレ」という看板がありました。探していたのはこれかな、でも学校が銀行の上にあるんだろうかと半信半疑でした。電話帳で探し娘が電話をしてくれて、やっとこの学校にたどり着いたんです。

85歳と高齢ですが、勉強したいという思いはずっと以前からありました。10人兄弟の長男です。小学6年の時、戦争が激しくなるというので疎開することになりました。ヤンバル（沖縄の北部）に疎開という話があったそうですが、父は日本軍に味噌醤油を納入する仕事をしていたため、疎開できず家族もそのままでした。私と小４の弟の本土疎開が９月と決まりましたが、弟は直前に行かないと言い張り、私一人で乗船しました。ブラジル丸という貨物船です。にわか仕立てのかいこ棚が並び、横になるのも難しいほど子どもたちが詰め込まれていました。ちょっと前に対馬丸が沈んだこともあり、緊張した雰囲気でした。もっとも箝口令が敷かれていたので対馬丸の詳細は分かりません。だれかが噂を聞きつけて、話したりするとお巡りさんが、そんな事は無いと取り締まっていました。那覇港を出発したもの、隣りの本部港で 10 日間も足止めでした。それは南方からの駆逐艦を待っていたのです。台風が来て船は大揺れでしたが、こうした天気であれば敵も簡単に攻撃できまいと出航しました。駆逐艦が寄り添いわざとジクザクに走りながら４日間かけて鹿児島に到着です。

私は熊本県水俣の湯出の旅館に振り分けされました。学校は二部制で午後からです。勉強道具もあまりなく復習が主です。とにかく食べるものが無く、竹筒にちょっとの米とお汁だけで、毎日腹を抱えて、畑の野菜や干し柿を盗んだりしました。沖縄の状況は全く分からず、不安な２年間でした。

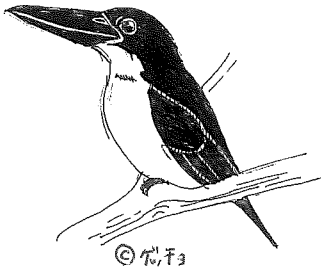
沖縄に返った時は茫然としました。焼け野原と言うか、なにもないのです。私は首里の生まれですが、あの緑に囲まれていた丘はただただ焼けただれた地でした。家族は迎えに来ず、泡瀬の収容所に入れられました。2 日ほどで米軍の車で我家のあったところで下され、そこで顔見知りに会い、両親のもとに戻ったのです。親兄弟は無事でしたが、あの弟と祖母は亡くなっていました。弟は家族と共に「ひめゆりの塔」近くの牛小屋に隠れていた時、艦砲射撃で手足を失くし出血多量で死んだそうです。後にその地に行きましたが、海が近く、艦船からは丸見えだったでしょう。牛小屋の脇に石垣があり、小屋の中にいた弟は死に、その他の家族は石垣のすきまで助かったのです。祖母は南部まで逃げることを拒否し、近くの壕から動かなったとか。壕の奥に入れと言っても年寄りはいつまで生きるか分からんから明るい場所に居たいと言っていたそうです。その姿を見られ手りゅう弾を投げ込まれ死んだのです。沖縄戦では多数の民間人が死にました。それは日本軍が人々の隠れていた壕を奪ったりして、危ない場所に民間人を放り出したりしたからです。

米軍が支給したテント屋に何家族かで住み、学校も半年ほど通いましたが、黒板はベニアに墨を塗ったもの、鉛筆は米軍のごみ捨て場から拾ったものでした。兄弟が多く配給だけでは足りません。芋の芽

が出ている所を探し小さな芋を掘り出し米軍のヘルメットを鍋にして煮て、兄弟に食べさせる毎日でした。しばらくして、米軍の軍作業に出るようになりました。軍の必要な人数をトラックに乗せて、資材の片づけをさせるのです。帰りに缶入りミルク、クッキーなどが入った缶が配られます。我家にとって貴重な食料です。下の兄弟を高校まで上げるのが長男の役目と思い、その後は車の修理場で働きました。テント屋が茅葺小屋に代わったのもこの頃です。

沖縄も少し落ち着いてきた頃、三男坊が内地で働きたいと家族の反対を押し切って東京に出ました。２，３年経っても音沙汰がなく、母から弟を探すように言われ、初めて内地に行きました。パスポートと米穀手帳が必要な時代です。やっと登戸で新聞配達員をしていた弟に会ったのですが、親方にパスポートを取られており、戻れない、戻りたくないと。仕方なしに私もしばらく川崎で機械修理工として働きました。沖縄出身というだけで家も貸してくれないし、空気は悪いし苦労しました。その後は沖縄に戻り大型トラックの運転手として、内地を行き来し生活してきました。40過ぎに結婚し、娘が二人います。家内が亡くなり、今ならと思って学校に通う決心をしました。

英語と歴史が好きです。先日、歴史で「おもろそうし」を教えてもらい、借りて読んだのですが、自分が好きな歴史ではなく、どちらかというと万葉集のような文学の本でした。それが分かったのも嬉しいのです。この３月に夜間中学校の補助打ち切りというニュースが流れ、がっくりしました。ちゃんとした教育を受けたいとやっとここにたどり着いたのに、自分の人生はついてないなあと。でも、補助がなくても続くことが分かり安心しました。知らないことを知る。分からないことが分かる。それだけで楽しい。嬉しいのです。



お礼

「珊瑚舎スコーレ夜間中学校に対する支援事業継続についての署名」を皆様にお願いしてまいりましたが、5月31日現在１９５８６筆の署名が寄せられました。北海道から海外まで様々な方々の協力によるものです。感謝申し上げます。ありがとうございました。6月8日に沖縄県教育委員会に提出させて頂きます。

★　★事務局便り　★　★

★　今回の署名に関しましては、皆様から心のこもったお手紙をたくさん頂き、勇気づけられました。良いお知らせができるよう努力致します。

★　3月に卒業した生徒を追ったドキュメント「菜の花の沖縄日記」が5月26日沖縄テレビで放映されました。石川県生まれの15歳の少女がなぜ沖縄の学校に入学したのか、そして彼女が見た、経験したリアル沖縄がテーマです。ご覧になりたい方には328円（送料込　切手可）でお送りします。

★　★　★

●今年度（４月１日～５月３１日）寄付・カンパを頂いた方々

石田みどり鹿糠文子坂本和子岡村健手塚賢至照本祥敬市野寿子当山幸江森口美千惠三浦幸子山田道子助川寿美子式部恵子丹羽雅代與儀勝子与那覇晴海湯本貴和上田秀一大城喜春北上田登久子盛口佳子真津昭夫家門収一長嶺由紀子橋川由美子小渡律子幸地江美子城間あずき松茂良米子名城悦子所扶久代石野裕子矢崎智章渡辺恵美子宜保和代尾崎せき松田晴代萩原真美城間栄順村上呂理伊波雅子仲里博彦下地孝中川彬子黒川優子知念敏則島袋恵子古堅苗山里愛比嘉慶真矢比嘉大恵竹内弘真宮城邦昌武田みどり屋父祖建樹屋父祖昌子坂本新一郎工藤英子今泉美代子辻口光生中地八重子金城成徳ホンジョウキヨミ東さよみ武田冨美子城間びんがた工房山城良子小林哲笠原乾吉曽田蕭子宮城久子麻鳥澄江伊藤薫名嘉光夫岡部勉白石幸江友寄和子坪井郁子坪井公載安田圭太郎仲村宮子徳永桂子丹羽晶子木名瀬武男星文子仲里一恵中山きく匿名辰巳万里子奥本札生佐久本直子土橋康彦湯浅松生桧垣敦子長谷川途子泉恵子高坂嘉孝中村久子當間シズ花城和子益子雄三益子幸江益子健一益子淳益子あゆみ加藤澄子曽田史子位田哲朗柴田建松永和子吉田純朗中島真や小林啓友和手和子西田悦子岡部勉館野素子山田晶子大垣千鶴野国紀子武義和大城孝太郎田中寧子西山智海西山哲平玉元美佐子上原紀子西山猛西山真理子日本聖公会沖縄支部婦人会菅谷麻友寄啓子野澤久夫カネモトトモコ西平守樹カビラチヨセイイトウシゲルイトカズマサノブモロサワトシヒコミウラミサ野村ヨシオ安田圭太郎小沢薫

発行者　：珊瑚舎スコーレ事務局　遠藤知子
住　所　：〒900-0022　那覇市樋川1-28-1-3F
Tel　：098-836-9011　Fax：098-836-9070
Mail　：sango@nirai.ne.jp
URL　：http://www.sangosya.com